



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



局幹部と新規採用者（後列6名、P9で紹介）

これからの国有林を担う若い力 フレッシュマンをよろしく!!

主な項目	○ 平成27年度中部森林管理局事業概要を公表	P2
	○ 各地からのたより	P5
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P8
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

平成二十七年 度 中部森林管理局事業概要を公表

四月二十三日・二十四日に局及び名古屋事務所において平成二十七年中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行いました。

事業方針として国有林野事業は、一般会計の下での事業運営にあたって、公益重視の管理経営の一層の推進及び我が国の林業の成長産業化への貢献を旨として、民有林との連携に積極的に取り組みつつ、これまで以上に計画的かつ効率的な実行に努めます。

特に、平成二十五年十二月に策定された「国有林野の管理経営に関する基本計画」、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に国産材の安定的・効率的な供給体制の構築への貢献や、森林吸収源対策への率先した取組などが掲げられていることを踏まえ、国有林の組織、技術力、資源を活かし、造林・間伐等のコスト削減や路網整備、木材安定供給をはじめ地域の森林・林業の課題解決のための取組について引き続き実績を積み重ねていくよう、局・署等が一体となってその推進に努めます。

一 公益重視の管理経営の一層の推進

国有林には国土の保全や地球温暖化の防止などの公益的機能の発揮が求められており、国民の皆さんとの双方向対話を一層進めながら、各種計画に基づいた森

林整備の実施、治山事業の効率的な実施による緑の国土強靱化対策の推進、保護林や緑の回廊等の生物多様性の保全、地域と一体となった鳥獣被害対策を推進します。

(一) 計画的な森林整備の推進

森林整備に当たっては、山地災害の防止、水源涵養、地球温暖化防止等の公益的機能の維持・増進を図るため、地域管理経営計画等に基づいた保育作業を適切に実施するとともに、複層林・針広混交林化等多様な森林づくりを推進します。



除伐作業

また、地球温暖化防止に資するため、森林吸収源対策として引き続き間伐の実施を促進するとともに、将来にわたる森林の保全及び吸収機能の強化を図る観点から、主伐及び主伐後の確実な再造林を促進していくことにより、人工林の齢級構成の平準化を図ります。

取組に当たっては、植栽時期を選ば

ないなどのコンテナ苗の特徴を活かし、伐採から植栽までの作業を一貫して行う「伐採・造林一貫作業システム」の導入等、低コスト化に資する施業技術の普及・定着に努めます。

(二) 山地防災力の強化

○治山事業の着実な推進

安全・安心で災害に強い森林づくりのための効果的・効率的な治山対策や、集中豪雨等により被災した緊急性の高い崩壊地等の復旧対策、御嶽山噴火等に伴う土石流対策を二十六年度補正予算及び二十七年予算等により着実に進めます。

また、災害に強い健全な森林を育成することにより緑の国土強靱化対策を進めるとともに、既存施設の長寿命化にも計画的に取り組みます。

なお、工事の実施に当たっては生物多様性への配慮や木材利用の推進に努めます。

○民有林直轄治山事業の実施

民有林において、災害復旧事業の規模が大きい場合や特に高度な技術を必要とする場合は、県からの要請に応じて中部森林管理局が直轄で治山事業を実施します。

○災害発生時の迅速な対応

大規模災害発生時等は、専門家にもご協力いただき、ヘリコプターを使った調査や緊急対策工事、復旧計画の策定、復旧事業の実施などを民有林と連携して迅速に行います。



ヘリコプターを使った被害状況調査

速に行います。

(三) 生物多様性保全の推進

○高山植物等保護の実施

貴重な自然を有する上高地、立山、乗鞍岳などにおいて、登山利用の集中化等に伴う植生荒廃防止等を目的に巡視等を行うグリーン・サポート・スタッフ(GSS)により、現地の最新情報や活動状況等についてホームページでの情報発信に取り組みます。また、山火事や高山植物の盗採掘、廃棄物の不法投棄等の未然防止のため森林官等による国有林野巡視を行います。

○自然再生事業の実施

木曾駒ヶ岳や雲ノ平において、衰退した高山植物を復元する活動を、NPOやボランティア等と連携して実施します。

○保護林のモニタリング

国有林では、原生的な天然林や希少な動植物の生息・生育地等を対象に保護林

(3) 平成 27 年 5 月



保護林の調査

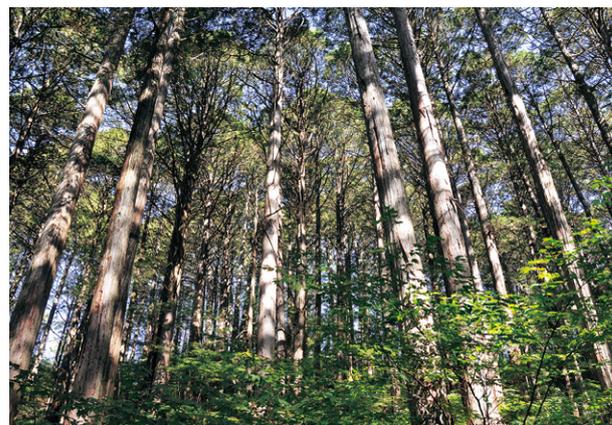
を設定しており、保護林の現状を的確に把握するため、定期的にモニタリング調査を実施しています。調査は、地域管理経営計画樹立の前々年度にあたる森林計画区内の保護林において、設定したプロットでの森林調査（毎木、植物相）や利用動態に関する調査等を、原則五年前と比較できるように行っています。

平成二十七年度は、伊那谷、木曾川、東三河の三つの森林計画区内にある保護林でモニタリング調査を行う予定です。

○「木曾悠久の森」の取組

天然のヒノキ、サワラ等からなる木曾地方の温帯性針葉樹林は、自然度の高い状態でまとまって非常に貴重なものとなっており、この温帯性針葉樹林の保存・復元を目指し、平成二十五年度から検討を行ってきました。

平成二十七年度は、新たに三つの専門部会を設置し、(一) 木曾悠久の森管理基本計画の策定、(二) 新たな保護林の設定、(三) 環境に配慮した事業の実行、(四) 情報の発信を推進します。



温帯性針葉樹林がまとまって成林する「木曾悠久の森」

○ニホンジカ等被害対策の充実

地方自治体や学識経験者、NPO等と連携しながら、野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備事業として、長野県浅間、美ヶ原、霧ヶ峰、八ヶ岳、南アルプス、北アルプス（長野県側）、岐阜県七宗の各地域を指定し、ニホンジカの生息状況の調査や防護柵の設置、個体数調整等の取組を行ってきました。

拡大する被害に対応するため、長野県木曾、南木曾、岐阜県揖斐川、中津川、天生でも生息調査、防護柵の設置、個体数調整を行うとともに、イノシシ対策として、金華山、乗鞍で捕獲支援、移動拡散防止柵の設置を新たに始めます。

さらに、効率的かつ持続的なシカ管理体制をコーディネートする体制づくりと



地域住民への庁舎開放
(夏休み子どもふれあいデー・局)

して、「森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業」により新たな捕獲方法の検証を南信森林管理署管内で、引き続き実施していきます。

(四) 双方方向の情報発信

国有林モニターによる現地見学会・モニター会議やホームページ等を通じて多くの情報の受発信を行い、より透明性の高い国有林野の管理経営を進めます。

また、森林計画の策定に当たり、国有林の森林資源や整備状況、利活用等に関する情報を広く提供するとともに、地域の方々との懇談会や現地見学会の開催、ホームページ等による意見募集を実施し、地域に根ざした幅広い情報や要請を森林計画に反映させるよう取り組みます。

二 森林・林業再生への貢献

戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林業の成長産業化に向け、計画的な主伐の実施、主伐後の確実な再造林に取り組むとともに、民有林と連携した施業の実施、国有林のフィールドや技術を活用した森林・林業技術者の育成や先駆的な技術・手法の事業レベルでの試行、生産性向上の実現に向けた取組や林産物の安定供給等に積極的に取り組めます。

(一) 森林資源の若返りの推進

地球温暖化対策として、政府は二〇二〇年度に森林吸収量二・八%以上（二〇〇五年度総排出量比）を確保する目標を立てています。このため、人工林の高齢級化に伴う吸収量の低下が見込まれる中、間伐の実施を促進するとともに、将来にわたる森林の吸収作用の保全・強化と林業の成長産業化を図ることを目的に、伐採（主伐）と再造林により森林資源の若返りを推進します。



コンテナ苗

さらに民有林行政への理解等も具備した准フォレスター等が、県のフォレスター等と連携を図りつつ、国有林の持つ



技術者養成研修 (森林技術・支援センター)

具体には、主伐を進めるとともに、立木のシステム販売、カラマツ採種園の再整備、コンテナ苗を活用した伐採・造林の一貫作業システム等の造林コストの低減等に取組みます。
(二) 人材の育成・市町村支援
森林・林業技術者の育成を図るため、将来の森林総合監理士(フォレスター)候補者を育成する研修等を、国有林のフィールドと技術の提供により実施するとともに、各署等に森林総合監理士や准フォレスター等を配置して積極的に民有林行政への支援を行います。
また、大学等と連携し、将来の森林・林業技術者の育成に向けた取組も実施します。



国有林材を柱材として建設された「ながと保育園」(東信署)

技術的な知見や情報を提供するなど、市町村森林整備計画の策定等への助言等の支援を行います。
(三) 林産物の安定供給
成熟期を迎えた人工林の若返りと林業の成長産業化を図るため、主伐や森林整備における間伐の結果得られる木材を林道等の路網を活用して生産・販売し、木材の安定供給に努めます。
(四) 木材需要の拡大
木材需要の一層の拡大を図るため、需要情報を的確に把握し、需要に即した木材を安定的に供給します(システム販売の推進)。また、高齢級人工林ヒノキのブランド化をさらに進める取り組みを実施します。
公共施設や公共工事等の工事資材、現場事務所等の仮設資材への地域材の使用の拡大、木材の需要拡大の働きかけを行います。

三 山村地域の振興と森林の総合利用
昨年度管内各地で発生した災害からの復興を支援するとともに、地域の伝統産業の育成等にも資する森林等の整備、地域の教育機関との連携やアンケート等を通じたレクリエーションの森の活性化をはじめ、林産物の安定供給、野生鳥獣への対策、国有林野の活用、人材育成を始めた民有林への指導やサポート、民有林材を含めた木材の安定供給体制の構

(五) 民国連携の推進
民有林の所有者と「公益的機能維持増進協定」を締結し、国有林と民有林の一体的な整備を進めます。また、民有林との森林整備推進協定等を基に、国有林又は民有地の中間土場の活用による流通経費の低減、民有林と一体となった木材のシステム販売等を実施するほか、民国連携による事業予定量の情報提供、林業事業体の育成、現地研修による人材の育成等に取り組みます。
(六) 技術開発
効率的・省力的な林業経営や、森林の整備・保全に関する技術・手法の普及を図るため、伐採と造林の一貫作業による効率化、コンテナ苗植栽による低コスト化などを、事業実行の中で実証・実践する技術開発に取り組みます。
これらについて、大学や研究機関とも連携して取り組むとともに、地域における民有林と国有林の技術情報等の共有を図ります。

「国民参加の森林づくり」の活動を支援するため、「ふれあいの森」、「遊々の森」や「社会貢献の森」などでの活動への技術支援や新たなフィールド提供、各種団体等への情報提供等のPR活動を市町村等と連携を図りつつ取り組みます。
(三) 地域の伝統文化継承への貢献
地域の伝統行事や文化の継承等に貢献するための活動への技術支援等を行うとともに、新たなフィールドの提供などに向け、市町村等への情報提供などの活動

(一) 森林とのふれあいの場の提供
国民の保健、文化、教育の利用に資する自然休養林等のレクリエーションの森をより多くの方々に利用していただくためのPR活動等、地域の振興に寄与するための取組を地元関係者と連携しながら実施します。
(二) 森林づくり活動へのフィールド提供
築など山村地域の振興に寄与する取組を推進します。



高校生による大阿原湿原の整備 (南信署)

に取り組みます。
(四) 災害からの地域の復興支援

御嶽山の噴火をはじめとして昨年管内で発生した災害からの地域の復興を支援するため、貸付料の減免や国有林活用要望への対応、名古屋市民を対象とした森林見学会等の開催や木曽地域支援イベント開催等の取組を実施します。

また、治山ダムの設置等により噴火等に伴う土石流対策を実施します。



木曾・王滝復興支援イベント

平成二十七年中部森林管理局事業概要につきましては、HPに掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。

URL
<http://www.rinyamaff.go.jp/chubu/>

未利用材の効率的な収集・運搬目指し!

「名古屋事務所」(一社) 岐阜県森林産業協会 (伊藤光邦会長)、岐阜県木材流通

協同組合 (伊藤光邦会長) は、岐阜県産材流通課との共催により、「未利用材の効率的な収集・運搬に関する講演会及び意見交換会」を三月二十三日、中津川市付知町において開催されました。



岐阜県森林研究所古川部長研究員による講演の様子

冒頭挨拶で、岐阜県長沼県産材流通課長から「瑞穂市で稼働開始したバイオマス発電は、順調に稼働していると聞いているが、未利用材の集荷が計画どおりとはなっていない状況である。皆さんに未利用材の効率的な搬出方法について検討する場としてもらいたい。岐阜県内では既に森の合板(協)、昨年十二月には(株)岐阜バイオマスパワーが、本年7月には長良川木材事業(協)が稼働する



意見交換会の様子

予定である。これら合わせて約二十五万立方メートル前後の木材需要が出てくることとなる。山側からいかに木材(A・D材)を安定供給し、搬出するかを勉強していただき、岐阜県内の木材搬出にお力添えいただきたい。」と挨拶がありました。

講演会は、講演一「林地残材の集運材作業における生産性等調査結果について」、講演二「タワーヤーダによる搬出システムについて」、講演三「ガイドラインに基づく伐採の種類と由来区分及び木質バイオマス証明書に添付する書類例について」の三課題について、これまでの現場での研究成果についての報告等を受け、意見交換を行いました。

意見交換会では、「未利用材集荷量を順次増加していきたい。」「D材運搬コスト削減にトレーラ輸送も検討」「運賃・管理費等を計算すると、運搬距離の近い大王製紙・小林三之助商店に卸すことの見合も：」「国有林の事業実施箇所

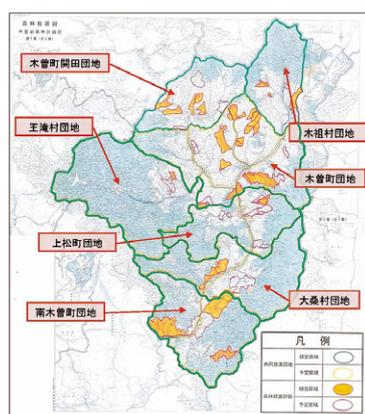
において、全量搬出していきたい。」「県で購入するタワーヤーダを使い、産官学で研修会等の検討も考えていきたい。」などの意見も出されました。

各地からのたより

民国一体となった木曾谷流域全域を森林共同施業団地に設定

「木曾署・南木曾支署」木曾署管内では、平成二十五年年度に「木曾谷流域森林整備推進協定」を締結し、林業関係者全体で地域の森林・林業の再生に取り組んできました。

昨年度末までに七箇所(木曾町、大森村、上松町、南木曾町、木曽町、王滝村、木曽町)の森林共同施業団地を設定し、管内六町村全域が国、県、町村、木材市場、森林組合等による団地となりました。



木曾谷流域の団地図面



一部を貸付した国道19号沿線の藪原土場

各団地では、森林の現況の分析・民間が連携した作業路網の開設と共同利用・森林整備の目標と事業計画・木材の安定供給と担い手の確保等を実施計画書に定めました。森林整備の事業計画で長期間の事業量を示すことにより、林業事業者等において事業計画や今後の設備投資、増員計画等の指針として活用され事業体育成に資することを期待しています。

また、昨年度から国有林の貢献として、ストックヤードが不足していた協定者に対し土場の一部の貸付や民有林と連携したシステム販売を実施しており、引き続きこの取組を進め地域材の流通コストの軽減、安定供給と有利販売に努めていくこととしています。

かつては木曾地域の雇用と経済は、森林・林業が担っていました。人工林資源が充実してきた今、民国一体での取組をさらに推進し、木曾谷流域林業の活性化を図っていくことにしています。

「運命の木」再現 （姫路城西心柱レプリカ誕生）

【東濃署】世界遺産「国宝・姫路城」の天守閣を支える西心柱のご縁で、中津川市（岐阜県）と市川町（兵庫県）が制作してきた同柱のレプリカが完成し、四月十八日、同町文化センター芝生広場でお披露目イベントが開催されました。

西心柱は昭和の大修理で取り替えられ、中津川市と市川町から産出されたヒノキが上下に継ぎ合わされました。その際の柱材調達を巡る逸話から「運命の木」と呼ばれています（詳しくは、本年一月の広報「中部の森林」第一三〇号をご覧ください）。

レプリカは、今春の姫路城の平成大修理落成を機に両市町が交流をさらに深めようと、本物と同様に東濃森林管理署管内の加子母裏木曾国有林（中津川市）の木曾ヒノキと市川町の笠形神社のヒノキ



運命の木（原建築さん倉庫で青山市長外と）

を使用して、心柱（全長二十五メートル×最大幅一メートル）の中央にある継ぎ手部分を再現し、全長八メートル×幅五十七センチメートルの柱一本と、継ぎ手の構造を見せる全長四メートル×同五十一センチメートルの柱二体が作られました。

イベントでは、製作に携わった中津川市産直住宅振興会のメンバーが市川町のヒノキを担ぎ、隠目連社人三味線継ぎ（かくしめちがいえりいりしやみせんつぎ）という継ぎ手を合わせて木曾ヒノキにはめこみ八メートルの柱が完成すると、大勢の観客から拍手がわき起こりました。



運命の木（市川町での継ぎ手組合せ）

これに先立つ開会式では、青山節児中津川市長が、「運命の木」を姫路市も含めた三市町の交流と発展に活かし盛り上げていきたいと思いますと挨拶され、木曾ヒノキを地域の魅力をつくる宝物と紹介いただきました。また、間島重道東濃署長から、木曾ヒノキに関わる歴史や現在の管理、レプリカ用材の概要などを解説し、

観客は傾きながら聞き入っていました。この取り組みの中心的な役割を果たされた桂川利也中津川市林業振興課長は、「古くから多くの歴史的建造物の創建や修復に裏木曾の木曾ヒノキが使われてきたことは、この地域のヒノキが良質で優れた木材である証であり、そうした地域であったからこそ木材加工技術が向上し伝統技法がしっかりと継承されてきている。今回はその両方を多くの方に知っていただくことができました。ご協力いただいた皆様には感謝しています。」と笑顔で述べておられました。

今回再現された柱のうち四本の一体は中津川市が管理し、市役所やイベントなどで展示され、西心柱にゆかりの三市町の交流促進や地域文化の伝承に役立てられることとなっています（残りの二体は市川町文化センターで常設展示）。



運命の木（署ホールで展示）

なお、中津川市のご厚意で、レプリカを東濃署の玄関ホールで展示中です。木目が細かく詰まった木曽ヒノキの材観や珍しい継ぎ手、ホールに広がる香りを是非お楽しみください。(平日、六月二十五日(木)まで)

地元中学生による小鳥の巣箱かけ 戸隠森林植物園

〔北信署〕四月十日、長野市立戸隠中学校二年生二十六名による小鳥の巣箱かけが、戸隠森林植物園で行われました。

この巣箱かけは、同校が「戸隠高原に生息する身近な鳥類に興味を持ち、生態について学ぶ」「自然に親しみながら動植物の保護に関して理解を深める」「二学年の伝統的な行事として生徒相互の関係を深める」ことを目的として昭和四十八年から毎年実施している行事で、今年で四十三回目となります。



巣箱かけの様子

巣箱は、事前に戸隠地域統括森林官から、これまでの営巣状況や巣箱作りのコツ等の授業を受けた生徒たち一人一人の手作りによるものです。

生徒たちは、残雪が一・五メートルと例年の二倍以上ある中、慣れない足取りで巣箱を設置するエリアに移動し、当署員から巣箱を取り付ける高さや方向について指導を受けた後、「どの木に掛けようかな」と、小鳥が営巣し易そうな樹木を慎重に選んでいました。

巣箱は、梯子を使って樹木に取り付ける予定でしたが、残雪が多いために梯子を使わなくて済む場所もあり、二十六個の巣箱かけは順調に進みました。



協力しながら巣箱を取り付ける生徒

巣箱かけ作業の終了後、長年、同植物園で野鳥の観察をしている、「NPO法人戸隠森林植物園ボランティアの会」の羽田収さんから、園内の野鳥の種類や鳴き声など、身近な自然に生息する野鳥の生態について説明を受け、生徒たちは、

興味深げに聞き入っていました。

同植物園では、これから野鳥のさえずりやミズバショウ等の開花が本番を迎える季節になります。北陸新幹線の金沢延伸や善光寺の御開帳で訪れた多くの来園者の心を癒やしてくれるものと思えます。

「自然を肌で感じよう」 森林教室が保育園の年間行事に

〔中信署〕四月三十日、中信森林管理署では隣接する松本市堀米保育園の年長児二十四名を対象に森林教室を行いました。

今年は、森林教室が保育園の年間行事となったことから、春はフィールドを野外に設定し、五感を使って自然に親しんでいただくこととしました。

最初、園児にアイマスクをして「目か



ネイチャーゲームを楽しむ園児

くしイモ虫」というネイチャーゲームを行いました。

園児たちは目かくしで目的地の樹木まで歩行し、樹皮に触ったり抱きついたりしてからスタート地点まで戻り、アイマスクを外して自分達の触った木をそれぞれ探しました。木の感触だけではわからないようで、実際に目で見て探し出すのに苦労していました。次に行ったのは「ゴウモリとガ」といって、目の見えないうゴウモリが超音波でガを探し捕食するのをゲームにしたもので、目かくしをしたインストラクターが逃げる園児の声を頼りに捕まえるゲームです。



木の感触を確かめる園児

最後は、署員が作成した小木工品のつかみ取りを行いました。小さな手で沢山のお土産を獲得する子もいて大変盛り上がりしました。家庭に帰って小木工品に使われていた木の実を見ながら、今日体験



残雪の中でのグリーンロープ張り

「北信署」四月二十三日、開園間近の戸隠森林植物園で、長野林業土木協会東北信支部北信分会の会員二十八名が、社会貢献活動の一環としてボランティアで歩道整備を行いました。

この歩道は、園内の湿地帯を周遊する全長約二キロメートルの木製バリアフリー歩道で、利用者の転落防止と踏み荒らしによる植生保護のため、毎年、開園前に歩道両側の支柱にグリーンロープを張る作業を行っています。

「戸隠森林植物園」歩道
ボランティアで整備

したことが家庭の中で話題となり、家族全員が自然との繋がりを持つきっかけになればと思えました。

今後、中信署においては、年中・年少園児を対象に森林教室を行う予定です。



作業に参加された皆さん

今冬は、例年になく積雪が多かったため、歩道周辺にはまだ腰丈ほどの残雪がありました。参加者は三班に分かれ、当署員の指導のもと、ロープを張り巡らす順番や絡まりに注意しながら作業を進めました。

当分会によるボランティア作業は、今回で十一回目を数えるため、会員の中には当署員よりも慣れた手つきの方も居て作業は順調に進み、予定した時間よりも早く開園を迎える準備が終了しました。

当日、雪の下で開花を待っていたミズバショウやリュウキンカ等も五月には見頃を迎え、色とりどりの草花が園内に咲き揃い来園者の目を楽しませるとともに、七年に一度開催される戸隠神社式年大祭（五月二十六日まで）にも花を添えることでしょうか。

シリーズ
「森林官からの便り」

「北信署 木島平森林事務所」

森林官 百瀬 結

木島平森林事務所は、長野県北部に位置する木島平村にあり、木島平村をはじめ山ノ内町や栄村の三町村にまたがる約七、三〇〇ヘクタールの国有林を管理しています。

木島平村には、「日本一美しいブナの原生林」とも呼ばれるカヤの平自然休養林があり、休養林内の北ドブ湿原では、夏になるとニッコウキスゲやタテヤマリンドウ等の色とりどりの花が咲き揃い、入山者の心を和ませてくれます。



夏の北ドブ湿原

また、当森林事務所管内にはスキー場があり、夏は森林散策やキャンプ場として利用され、冬はウィンタースポーツで賑わうなど、一年を通して多くの人が訪

れています。

中部森林管理局では、平成二十五年度から一般会計に移行したことを契機として、各署でレクリエーションの森の整備を行っています。当署では地元の下高井農林高校生がカヤの平自然休養林内において間伐材を活用した階段作りや歩道整備を行っています。



丸太の階段作り

近年、木島平村では、カシノナガキクイムシによるナラ枯れの被害が広まりつつあるため、被害を拡大させないための病虫害対策も重要な業務となっています。

以前は、被害木を伐倒・くん蒸するという一般的な方法を行ってききましたが、近年では、被害木の幹に立ち木のまま薬剤を塗布してシートで覆うといった方法を採用しており、これにより伐倒やシー



くん蒸処理後のナラ枯れ被害木

ト回収といった作業が省略できるため、駆除作業の効率化とコストの削減が期待されています。以上のような取組のほか、境界管理や造林・生産事業の監督業務、地元との窓口業務等、森林官の仕事は多岐に亘りますが、北信地方は豪雪地帯として有名で、六〇十一月の半年程しか現場で作業できないため、時期を逸しないよう綿密にスケジュールを組んで計画的に処理しなければなりません。

平成二十五年に初めて森林官として着任したときは、右も左も分からず不安だらけでしたが、現場を知り尽くした作業班（非常勤職員）をはじめ、近隣の森林官や署の皆さんの指導と協力を得てなんとか仕事をこなすことができ、忙しいながらもやりがいのある日々を過ごさせていただいています。これからも人との繋がりを大切に、楽しみながら仕事をしたいと考えています。

新規採用者の紹介

どうぞよろしく
お願いします。

- ① 出身地
- ② 趣味・特技
- ③ 社会人になっての抱負

平成二十七年四月、六名の職員が採用となり、管内各署等に配属となりました。

新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。

☆一般職



かとう あゆみ
加藤 歩実
(愛知所)

- ① 岐阜県岐阜市
- ② 音楽鑑賞
- ③ 新しい土地に慣れない環境。けれど日々見つける新しい発見を楽しみながら学び、仕事の糧にしていきたいと思えます。



むらやま ゆうや
村山 優弥
(中信署)



こばやし みお
小林 美緒
(岐阜署)

- ① 長野県茅野市
- ② 自転車競技
- ③ やる時はやる。楽しく精一杯がんばります。ご指導よろしく願います。

- ① 長野県長野市
- ② 散歩すること。一応チェロが弾けます。
- ③ まだ右も左もわからず果たして仕事ができるようになるのか不安もありますが、何事にも積極的に挑戦していく気持ち忘れずがんばります。



おかくら ようへい
岡倉 洋平
(東濃署)

- ① 福井県福井市
- ② サッカー、映画鑑賞
- ③ 積極的に先輩の方々から学び、早く一人前になりたいと思います。未熟な所が多々あるとは思いますが、どうぞよろしく願います。



おおしま かずき
大嶋 一輝
(飛騨署)



いまい あゆむ
今井 歩
(木曾署)

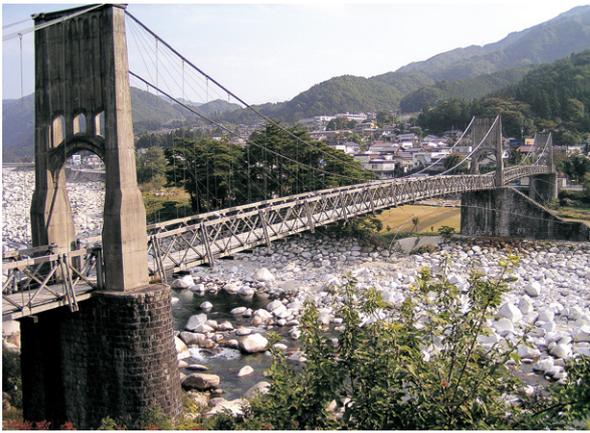
- ① 長野県上伊那郡飯島町
- ② スノーボード、スキー、バレーボール
- ③ 先輩、上司、同期などたくさんの方に世話になると思います。精一杯頑張っていきます。よろしく願います。

- ① 岐阜県下呂市
- ② 弓道、ソフトテニス
- ③ 上司、先輩、同期などに支えていただきながら日本の林業・森林を盛り上げていきたいと思えます。よろしく願います。



行事・会議等の予定

- ◎ 林木育種技術講習会
6月2日 東信署管内
- ◎ 造林事業担当者業務打合せ会議
6月10日～11日 木曾署管内
- ◎ 「木曾悠久の森」管理委員会等
6月18日～19日 木曾署
- ◎ 林野庁内部監査
6月23日～26日 東信署・局
- ◎ 森林管理局事業担当課長会議
6月25日～26日 林野庁

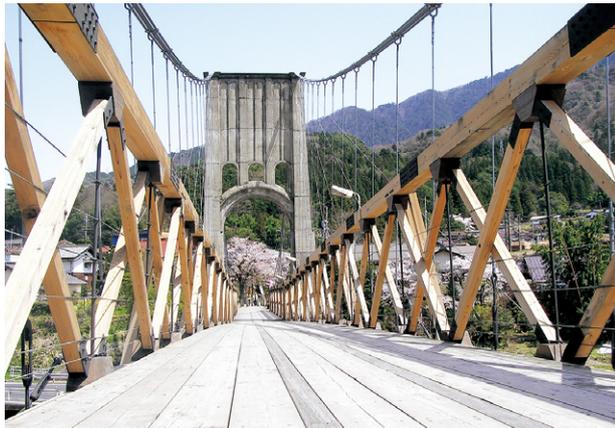


桃介橋全景

南木曾町（なぎぞまち）は、長野県の南西部、木曾谷の南端に位置します。面積の九十四％が森林で占められていて、うち七割が国有林です。古来から伊那谷、木曾谷と美濃を結ぶ交通の要衝であり、中山道木曾十一宿の一つ「妻籠宿」があることで知られています。

◆桃介橋（ももすけばし）

「桃介橋」は別名「桃の橋」と呼ばれ、大正十一年九月に完成しました。木曾川の水力発電開発に力を注いだ大同電



復元された桃介橋

桃介橋は全長二四七メートル、幅二・七メートルで、この付近では最大川幅のところにあり、美しく雄大な景観を誇っています。平成六年に国重要文化財に指定されました。

力（福沢桃介社長）が読書発電所（大正十二年完成）建設の資材運搬路として架けたものです。

その後、村道（現在の町道）として、兩岸集落の交通や、高校生・中学生の通学など地域の交通に大いに役立っていました。昭和五十年代には老朽化も進み、本格的な修理もできなかったため廃橋寸前となっていました。この間、保存・活用の声が多く寄せられ、付近一帯の天白公園整備に併せて、町が近代化遺産として復元したものです。



春の福沢桃介記念館

その桃介を助け、よきパートナーであったのが、わが国女優第一号といわれる川上貞奴（かわかみさだやっこ）でした。

二人は、大井川発電所が完成する大正十三年まで頻繁にこの別荘に滞在し、政財界の実力者や外国人技師などを招いては、華やかな宴を催したということです。

山深いこの地であって、この別荘だけ

◆福沢桃介記念館（ふくざわももすけきねんかん）

「二河川一会社主義」を掲げて木曾川の電源開発に乗り出した電力王・福沢桃介は、木曾における基地として、現在の南木曾町読書の地に別荘を建て、ここから読書や大井などの発電所建設現場に足を運びました。



福沢桃介記念館の様子

は西洋の香が漂う異国だったのです。建物は、昭和六十年から桃介記念館として一般に公開されていますが、大正時代の貴重な西洋風別荘建築としても知られているこの記念館に一步足を踏み入れると、桃介と貞奴が過ごした大正ロマネスク時代にタイムスリップしたような錯覚に陥ります。

◆所在地

長野県木曾郡南木曾町読書天白

◆アクセス方法

- ・公共交通機関 JR中央本線南木曾 駅下車 徒歩十分
- ・自家用車 中央自動車道中津川IC

～国道十九号約三十分

◆お問い合わせ

南木曾町観光協会
 電話番号〇二六四―五七―二〇〇一